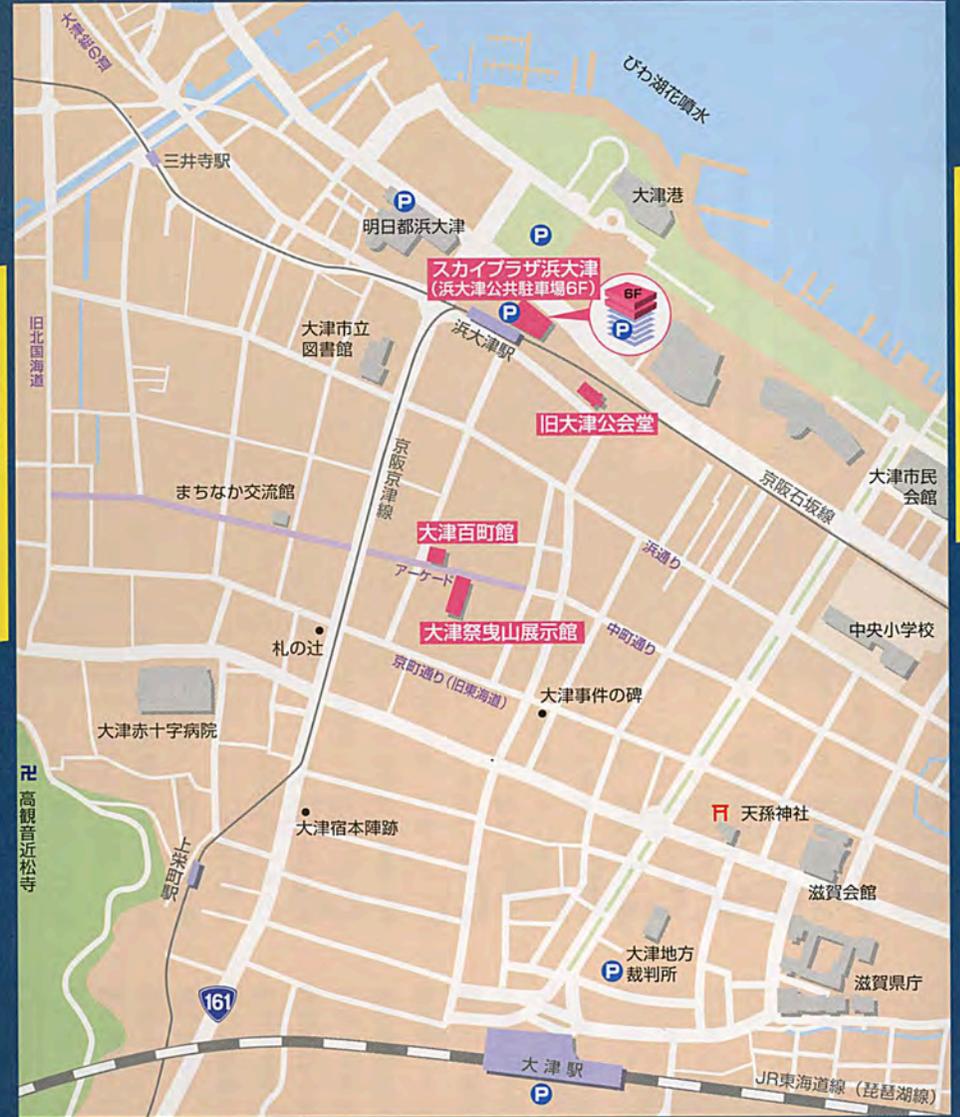


【大津市民憲章制定50周年記念】  
【大津市歴史博物館第57回企画展】

otsu 100 2011  
**大津百町大写真展**  
公式ガイドブック



Otsu Harbour, O.m.s. 長の浦津大江原



おおつひゃくちょう  
**大津百町大写真展公式ガイドブック**

〈会期〉2011/10/22(土)～11/6(日) (月曜日・11/4(日)は休み スカイプラザ浜大津は10/27(土)も休)

〈会場〉旧大津公会堂・大津祭曳山展示館・スカイプラザ浜大津・大津百町館 **入場無料**

〈主催〉大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・いまきいととき隊・大津市中心市街地活性化協議会・大津の町家を考える会  
NPO法人大津祭曳山連盟・シネファンク・スカイプラザ浜大津・成安造形大学写真メディア研究室・株式会社まちづくり大津

お問合せ **大津市歴史博物館** 〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎077-521-2100

# 旧 大津公会堂 会場

## 証言VTRでたどる 百町むかしがたり

【企画 いまきいとき隊】

人々のキオクに残る百町の思い出を映像によって再現する試みです。懐かしそうに話される方々の様子を撮影した映像に、古写真を入れて番組にしました。インタビュー映像や写真を通してかつての百町のありさまや生活の様子をみなさんのキオクに重ねあわせてください。

## オールドオーツ 『物語の誕生』2011

【企画 シネファンク】

家庭のアルバムに眠る思い出の写真を手掛かりに、それにまつわるお話をインタビュアーが聞き取り写真と物語で一枚のパネルを作り上げ それを語り手と聞き手の共同作品として みなさまにご覧いただけます。

## 大津百町まち遺産写真展

【企画 大津市中心市街地活性化協議会】

大津百町内には、江戸末期から明治初期の町家や、旧大津公会堂などの近代建築物が数多く残されており 近年、それらが国登録有形文化財となっています。この写真展では、これら貴重な「まち遺産」の歴史や町の見どころを写真パネルで紹介いたします。

# 大津祭 曳山展示館会場

## 大津祭なつかし写真展

【企画 NPO法人大津祭曳山連盟・大津市歴史博物館】

毎年10月に行なわれる大津祭の古い写真を展示します。現在は行なわれていない神輿渡御や当時の賑わいの様子などから かつての大津祭を振り返ります。



昨年秋、地域で活動する団体と共同で、大津百町を会場として「大津百町のむかしといま」をふりかえる「大津百町大写真展」を行ないました。今回はその第2弾です。

本年も昨年同様、大津の中心市街地、通称「大津百町」の昔と今の姿にふれていただき そこに、みなさんの記憶をまた新たに加えることで、大津百町の過去と現在の記録を作り上げることを目的としています。会場内で繰り広げられる懐かしい風景や現在の大津百町を切り取った写真をお楽しみいただくとともに、これを機会に百町内のまち歩きをお楽しみいただければ幸いです。

主催者

# 大津百町館会場

## 大津百町2011 —まちなかの記録—

【企画 成安造形大学写真メディア研究室】

成安造形大学の学生たちが 現在の大津のまちなかの様子を記録することをテーマに、それぞれの問題意識 表現で作品制作を行なう写真展です。取材を通して見た大津百町をご覧ください。

## 大津百町思い出写真館2011 —商店のにぎわい編—

【企画 大津市歴史博物館】

大津市歴史博物館の所蔵写真から選りすぐった、大津百町の古写真と みなさんの記憶（思い出）で構成する写真展です。明治末から大正に発行の『滋賀県ガイドブック』に取り上げられた商店の写真を中心に、百町のにぎわいをご紹介します。



# スカイプラザ浜大津会場 (浜大津公共駐車場6階)

## 大津百町思い出写真館2011 —浜大津編—

【企画 大津市歴史博物館】

スカイプラザ浜大津会場では、キーワードを「ターミナル」とし 交通関係を中心に、浜大津周辺の賑わいを示す写真を中心に構成します。

【本施設のみ、10月27日(木)もお休みをいただきます。】



これが「いまきいとき隊」のメンバー  
ビデオの編集にも拍車がかかる。

に実施された湖岸の埋め立て。昔、琵琶湖は市民の身近な生活の場だった。湖岸にあった石垣を降り、琵琶湖で洗濯した。湖に入ると魚がたくさんとれた。太湖汽船(現琵琶湖汽船)の桟橋から飛び込んでよく泳いだ。「そら禁止やがな。汽船のおっさんによく怒られたわ」と話すお年寄りの表情は、昔の「わるガキ」そのままだ。だからこそ、文字だけでなくビデオの映像として残しておきたかった。

また 湖岸の記憶は必ずと言ってよいほど「肥え船」の記憶につながっている。化学肥料じゃなく、人糞(下肥え)が当時のお百姓さんには欠かせない田畑の肥やしだった。「川口堀には向かい江州



帝国館 昭和13年頃  
石場にあった映画館。娯楽の少なかった当時、映画館は連日満員盛況だった。

の山田とか新浜から肥え船が来て、お札に野菜とかお米を置いていかはったわ」。交通機関も大きく様変わりした。「江若鉄道が遅かったんは単線やったしな。交差するのに駅でよう待たされたわ」。「京津電車は昔は札の辻が終点で、そこから先は狭い道が汽船乗り場まで続いていた」。「その細道は僕らの親も一突き抜けて言ううとったけど、そんな今の若い人は知らんの違うか」。「札の辻の電車の待合所はトイレもあったし、切符だけやなしに土産もんも売ってはった」。「札の辻から上手の一八町通りは旅館が多かったんや。旅館言うても小さい商人宿やったけどな」。「そやそや正月に



菱屋町商店街の蛸子市 昭和10年頃  
年末の蛸子市は、「山盛の人」でにぎわっていた。

は伊勢の大神楽が泊まってはってな」。「富山の葉売りも来たなあ。わしら子供のときは風船もらうんが楽しかった」。「そのころは楽しもうたら映画見るくらいやった。大黒座、公楽座、大津キネマほやほや石場に帝国館もあつたわ」。時折まじる大津言葉が耳に心地よい。それに、話は尽きそうもない。あれも聞きたい。これも知りたい。たくさん「百科辞典」をめくったが、未開のページは残されている。白紙のままの「履歴書」も山積みされている。「いまきいとき隊」の仕事も、まだまだ終わりそうにない。

(いまきいとき隊 細井民和 福井美知子 樋爪修)

# 証言YTRでたどる 百町むかしがたり — 古老が語る大津百町 —

大津の中心市街地、いわゆる大津百町の移り変わりを年配の方々にインタビューして記録する。そういう取り組みを始めて、もう八年になる。大津の変遷を、今聞いておかなければ という危機感から出発した。名付けて「いまきいとき隊」。今まで何人の方たちにお聞きしたことだらう。回したビデオは一三〇時間余にのぼる。ビデオと書いたが、それは、お聞きした話を文字にするだけでなく、懐かしそうに話される方々の 喜怒哀楽の表情そのものも、すべて記録として残したいと思っただけだ。お聞きした方の年齢は七十歳から九十歳代。その方々は いわば生きた大津の「百科辞典」だ。年齢



昭和初期の川口堀  
川口堀など大津の船入りには肥え船がやって来た。

によってページ数や項目に多少の差があるだけだ。年配の方々には本当に失礼だが、お聞きできないまま亡くなったたりすれば、貴重な「百科辞典」を読まないまま失うことになる。

また、こういう事も思う。大津に限らず、マチは生き物だということ。さまざま理由でマチは変化していく。我々が自分の「履歴書」を書くように、マチそのものの「履歴書」を残しておく。それも必要なことだ。お一人おひとりの「百科辞典」のページをめくり「履歴書」を作成し、次の世代に残す。そういった作業が、まさに「いまきいとき隊」の大事な仕事なのだ。

大津は戦前から戦後にかけて大きく変わった。風景も生活習慣も。とくに戦後



京津電車札の辻停車場 大正時代  
昔の京津電車(現京阪電車)は札の辻が終点だった。



大広間のある大津百町館。明治期は呉服屋が営まれていた。(大津市中央一丁目)

100 大津百町大写真展2011

コラム

# 「大津百町に残る町家」

## 町家ってなあに。

戦前、住まいの形は 地域や職業によって様々な形態がありました。中でも農村集落などと異なり、いわゆる密集商業地であった町場には 通りに面して間口が狭く、奥行き深い長方形の敷地に建つ住まいが多く、これらを町家といえます。その多くは 通りに面した部分にミセがあります。

## ◆昭和初期の道路拡幅

町家と言えば、虫籠窓(むしごまど)や、格子戸 卯建(うだつ) 漆喰壁(しっくいかべ)をイメージしますよ。ね。現在 通りから見える大津旧市街地の町家の中には 江戸末期に建てら



国登録有形文化財 初田家住宅

## ◆大津の町家の特徴

「大津の町家って 京町家とどこが違うの?」これは、よく尋ねられる質問です。実は 大津の町家は外観だけでは 本当の違いはわかりません。内部にその特徴を持っています。例えば 大広間と呼ばれる広い座敷を持つ町家が多いこと、表通りに面した居室の格子窓(多くの場合は 床からの出格子)の内側に板戸が隠されていること 大津祭の巡行路に面した町家に限られますが 一階オモテの居室に床の間のしつらいを持つなど、座敷化していること など。残念ながら、内部を見ることができない町家は あまりありませんが 大広間は 市民団体が管理運営し 公開している大津百町館(中央一丁目、不定休)にその姿を見ることが出来ます。また 一階の居室内にある隠し板戸は 現在 料亭となっている大津魚忠さん(京町一丁目)で、出格子のあるオモテノマで食事をされると見ることが出来ます。もちろん 見せていただく際は、ちゃんと断りを入れて下さい。

## ◆登録有形文化財も大津百宝

近年、大津百町内で、町家を国の登録有形文化財にする取り組みを進めています。登録となった町家は それぞれ大津の町家の特徴を、歴史の中で残してきた代表格の建造物です。町家に付属する土蔵や塀も登録案件となっています。戦後、高度成長期を経て、現在も大きく変わりつつありますが 町家が大切に生きてきた歴史や地蔵盆などの暮らしの文化と共に、「大津百宝」として、できる限り次世代に継承していきたいものです。そして、大津を旅する人々にもその価値を感じ取っていただけるようにしたいものです。(大津市中心市街地活性化協議会 柴山直子)



国登録有形文化財 北川家住宅